

第69回日本泳法研究会

令和4年3月19日に第69回日本泳法研究会が開催されました。例年一流派を取り上げた内容となっていましたが、本年は日本泳法委員会が中心となり「遠泳」をテーマとしました。事前に各流派、団体に遠泳についてのアンケートを実施し、その結果を委員会で集計、考察し発表を行ないました。

今年も集合開催はせずウェビナー形式とし、約350人の方にご参加いただきました。

<開催概要>

日 程：令和4年3月19日（土）

テーマ：「日本泳法と遠泳～その歴史と現在～」

ウェビナー形式で実施

主 催：（公財）日本水泳連盟

〈アンケート結果 ～資料より抜粋～〉

アンケート回答のまとめ

・遠泳実施流派（団体数）

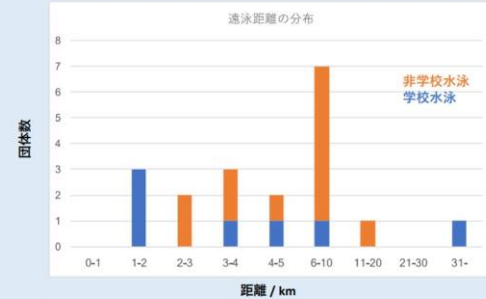
小堀流踏水術(5), 山内流(1), 神伝流(3), 水任流(1), 岩倉流(1), 能島流(1), 観海流(1), 水府流(2), 水府流太田派(5)

・遠泳の目的

1. 「団体訓練」：有志者による鍛錬の一環として開催
 2. 「試験」：泳法技術が一定水準に到達しているかを見極める関門として開催
 3. 「学校教育」：母体が学校の団体において、参加義務の生徒全体の泳力向上
 4. 「行事」：夏の海での合宿における恒例行事のように、イベント的な位置づけの4項目に大別。
- 流派、団体、母体が学校か否か、によって項目間の軽重が異なる。

7

遠泳の実施距離

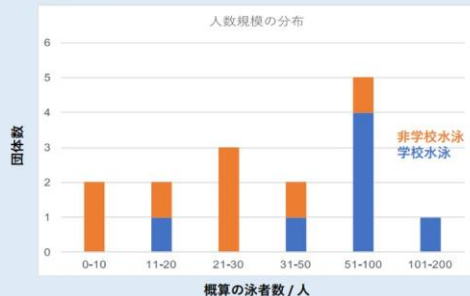


* 集計値については、回答があった団体のみ。以下同様。

- ・ 2 - 40 km の範囲で分布、10 km 以下が主流（全体の90%以上）
- ・ 学校が母体ではない団体（非学校水泳）は、3-20 km にまんべんなく分布
→ 実施距離に適する泳者を集めて実施していると推定される
- ・ 学校を母体を持つ団体（学校水泳）は短距離・長距離が極端な傾向
→ 部活や有志による団体訓練的要素が強いところは、長距離化し、全校生徒のような大きな集団に対する教育要素が強いところは、短距離化する、というような、分布の偏りが見られる。

8

遠泳の実施規模



- ・ 人数規模は10-140人（概算）と幅広い
- ・ 非学校水泳／学校水泳で人数規模に顕著な差
非学校水泳：平均30人
学校水泳：平均80人
→ 非学校水泳が「有志」の位置づけに対して、学校水泳では「多数の生徒が、カリキュラムとして参加」という体制である傾向が強いと考えられる

9

実施場所マップ（現在不実施の場所も含む）

- 非学校水泳：
それぞれの流派・団体
発祥の地で実施
- 学校水泳：
すべてが東京近郊で実施
特に千葉県房総半島に偏り
（図中、大きな印で表示）



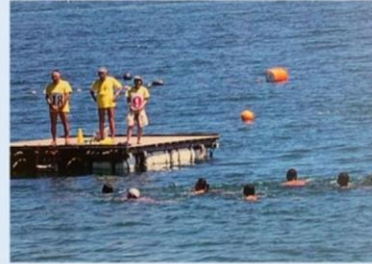
12

〈遠泳の様子 ～資料より抜粋～〉



京都踏水会水泳学園
琵琶湖での遠泳風景

23



山内流 最近の遠泳風景

27



昭和30年 保田大遠泳の前【提供：吉池薫（昭29卒）】



昭和30年 保田大遠泳の前、全員で合唱
【提供：吉池薫（昭29卒）】



昭和30年 保田大遠泳に出発



昭和30年 保田大遠泳【提供：吉池薫（昭29卒）】

(引用) 一水会百拾年記念誌-都立日比谷高校臨海合宿の歴史-

30



桐游倶楽部 富浦 遠泳風景

51